

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 25 週 2025 年 6 月 16 日 ~ 2025 年 6 月 22 日

今週のコメント

ヘルパンギーナが、警報レベルになりました。
伝染性紅斑(リンゴ病)は、警報レベル継続中です。

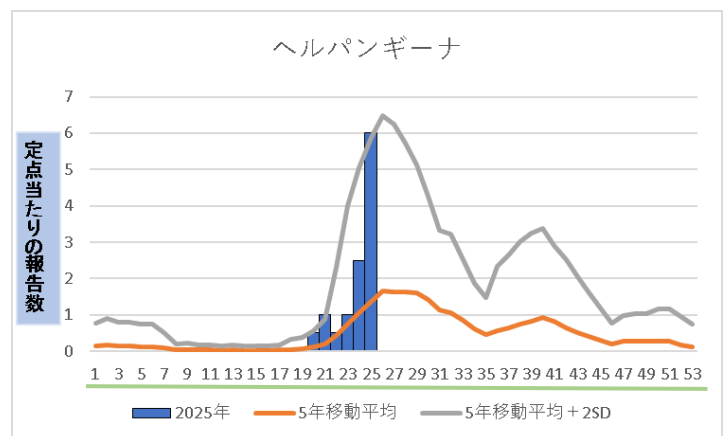
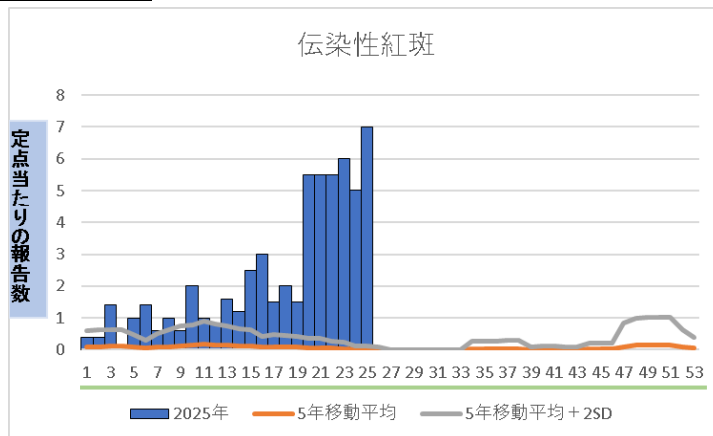
2025 年第 25 週の報告です。

○伝染性紅斑の定点あたりの報告数は南丹 7.00(前週 5.00)、京都府 2.44(2.00)となっています。
○ヘルパンギーナの定点あたりの報告数は南丹 6.00(前週 2.50)、京都府 0.49(前週 0.18)となっています。
○感染性胃腸炎の定点あたりの報告数は南丹 3.50(前週 6.50)、京都府 6.90(前週 6.85)となっています。
○全国的に百日咳(全数報告疾患)の流行が継続しており、府内でも報告が続いています。第 25 週においては南丹保健所管内で 1 件(前週 0 件)、府内で 34 件(前週 43 件)報告されました。長引く咳には注意し、乳幼児は予防接種を確実に行いましょう。

京都府の百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

百日咳に関する情報は[こちら](#)を確認して下さい。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

1 『5 年移動平均』は、過去 5 年間の平均値の変化を表しています。

2 『5 年移動平均+2SD』は、過去 5 年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約 95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

ヘルパンギーナとは…

乳幼児を中心に、主に夏に流行する感染症です。

症状は、感染してから 2~4 日後に、突発の発熱に続いて、喉に痛みと水泡が現れます。発熱は 1~3 日続き、食欲不振、全身のだるさ、頭痛などを引き起こします。2~3 日以内に回復することが多いですが、合併症として、熱性けいれんや脱水症、髄膜炎、心筋炎などを引き起こすこともあり注意が必要です。

感染経路は、主に経口感染、接触感染、飛まつ感染です。急性期には、のどからウイルスが排泄されるため、咳をした時の飛まつにより感染します。また、急性期から回復期(発症後 2~4 週間程度)にかけて、便からウイルスが排せつされるため、便がついたおむつや下着などに触れた後は、しっかり手洗いをしてください。

予防には、日頃からの“手洗い、うがい”が大切です。流水と石けんでしっかりと手洗いをしましょう。

ヘルパンギーナについてより詳しく知りたい方はこちらのページもご覧ください。

[ヘルパンギーナ\(厚生労働省\)](#)

各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル(2)		注意報(3)	R7.25w	
	開始	終息		定点当たり 報告数(1)	先週比
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	1.75	↗
新型コロナウイルス感染症				0.50	↗
RSウイルス感染症				0.00	→
咽頭結膜熱	3	1		0.50	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		0.50	↘
感染性胃腸炎	20	12		3.50	↘
水痘	2	1	1	0.00	→
手足口病	5	2		1.50	↗
伝染性紅斑	2	1		7.00	↗
突発性発しん				1.00	↗
ヘルパンギーナ	6	2		6.00	↗
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→
流行性角結膜炎	8	4		1.00	↗

参考資料: [京都府感染症情報センター](#)

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

急性呼吸器感染症(ARI)サーベイランスは、流行しやすい急性呼吸器感染症の発生動向の把握、未知の呼吸器感染症発生時に迅速に探知する等の目的で第15週より開始となりました。



○南丹保健所管内第25週報告数は290件(定点当たりの報告数:72.50)でした。



[京都府の情報はこちら](#)

最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)